

【5年生】

	児童の現状の分析	授業改善の方針
国語	〈読むこと〉 ○文学的な文章において、物語のあらましを捉えたり、人物の行動の意味や心情について叙述を基に捉えたりすることは、概ねできている。 ○説明的な文章においては、全体の構造を捉えることはできるようになってきているが、指示語の読み取り、語彙等に課題があることから、叙述を基に筆者の考えを捉えたり要旨を把握したりすることが十分にできていない。 ○語彙力や生活経験の差が大きく、比較的平易な言葉であっても、意味を正しく理解したり様子をイメージしたりすることが難しい児童も少なくない。 ○読書への意欲的について個人の差が大きい。	〈読むこと〉 ○「読み解く力」の育成について計画的に指導を積み重ねる。特に「係り受け解析」（主述関係・修飾被修飾の関係）、「照応解析」（指示語の読み取り）、「イメージ同定」（図表や絵や写真等と文の関係から読み取る）については国語における学習を生かして他教科の授業でも意識的に指導する。 ○分からない言葉や曖昧な言葉があるときは適宜、国語辞典を用いて調べる習慣を付け、意味を正しく捉えたり、活用したりすることができるようにする。 ○ポプラタイムと読書週間を活用し、読書に親しむ時間を確保する。読書の量や内容について、学校全体でのめあてを明確にし、児童一人一人がめあてをもって読書に取り組めるようにする。「読書のあしあと」に、年間を通じて読了した本を記録させる。成増図書館と連携してブックトークを実施し、読書の楽しさに目を向けさせる。
	〈書くこと〉 ○文章を書くこと自体に苦手意識を感じている児童もいる。 ○「はじめ・中・終わり」という構成で文章を書くことは概ねできているが、「中」の部分を目的に合わせて詳しくしたり、読み手を意識して自分の考えを適切に表現したりすることが十分にできていない。 ○書いた文章を、適切に読み返す習慣と技能が十分に身に付いていない。	〈書くこと〉 ○話形やワークシートなど書くための手だてを提示したり、ICTを用いて文字や段落の修正をしやすいしたりして書くことへの抵抗を少なくする。 ○ポプラタイムを活用して週に1回10分間の視写を行い、文字を認識し理解する力を高めるとともに、文章を書くこと自体に慣れさせる。 ○主述の呼応、誤字、脱字等といった表記上のや目的に合った文章になっているかなどの観点を明確に提示して、書いた文章を読み返し修正する活動を積み重ねる。
	〈話すこと・聞くこと〉 ○目的に応じて話題や内容を決めたり選んだりすることは概ねできている。話の構成を考えたり資料を適切に活用したりすることは手順を示したり、ワークシートを活用したりすると概ねできる。	〈話すこと・聞くこと〉 ○書くことの学習と関連づけて、話の構成や意図を伝えるための資料の活用の仕方等を具体的に指導し、学習を積み重ねることで児童が自分で考えて取り組めるようにする。 ○立場や意図を明確にした話し合いの仕方について具体的に指導し活動を積み重ねる。

	○インタビューで質問を重ねて、自分の知りたいことを相手から聞き出すことに課題がある。 〈漢字〉 ○漢字の定着度は個人差が大きい。 ○習った字を文章の中ですすんで使おうという意識が十分でない。	〈漢字〉 ○宿題等で継続的に繰り返し練習できるようにして定着を図るとともに、日常的に既習漢字の活用を促す。 ○国語に限らず様々な場面で、既習の漢字を使って記述する指導をする。
社 会	○各時間の課題について、調べたことをまとめる学習に意欲的に取り組む児童が多い。ただし、調べたことを単元全体でどのようにまとめたらよいか、難しさを感じている姿も見られる。 ○地図帳や統計、教科書の文章などの基礎的資料から、情報を読み取ったり、目的に応じて活用したりする技能に課題が見られる。 ○社会的事象についての興味・関心に個人差がある。	○児童の社会的事象に対する関心や疑問を基に単元の学習問題を設定する。調べる活動の際に、教科書から調べる、資料集から調べる、ICT 機器を活用して調べる、一人で調べる、友達と協力して調べる、先生に相談しながら調べるなどから、資料や方法を自分で選択できるようにし、学習への意欲をさらに高めていく。 ○調べる前に、統計資料のグラフや表の見方を全体で確認する。資料や文章の大切だと思うところにアンダーラインや印を付けることを習慣化し、それを用いてまとめるように促す。 ○ICT（動画や資料）を活用し、5年生の学習内容と今起きている社会的問題や自分たちの身近な生活を関連付け、児童の興味・関心を高める。
算 数	〈数と計算〉 ○基本的な四則計算の方法は理解しているが、正確さに課題がある。東京ベーシックドリル診断シートの正答率を見ると、小数のかけ算は47%、小数のわり算は33%にとどまっている。 〈図形〉 ○分度器・コンパスの使い方が定着していない。面積、体積は公式を理解し活用することはできるが、複合図形の求積に課題がある。東京ベーシックドリル診断シートの正答率を見ると、面積26%、四角形の作図43%、立体47%であった。 〈変化と関係〉 ○単位の換算が十分に定着していない。	〈数と計算〉 ○小数のかけ算・わり算については、その意味と手順を随時確認していき、あわせて、定期的に練習の場を設定する。 〈図形〉 ○図形では、分度器やコンパスの使い方について繰り返し指導し練習の機会をもつ。面積や体積の学習では、図や模型を操作する活動を取り入れ、興味・関心を高めるとともに、公式の理解を深められるようにする。 〈変化と関係〉 ○単位の関係性を量感をもたせながら理解させ、重さ・長さ・かさ・広さなど様々な単位を繰り返し練習する。

	〈データの活用〉 ○求められている事項についてのグラフの読み取りに課題がある。東京ベーシックドリル診断シートの正答率を見ると、折れ線グラフは41%であった。	〈データの活用〉 ○各種グラフについて、取り上げるたびに基本的な読み取り方を確認するとともに、はじめに全体的な傾向を捉え、次に各部分の変化や割合などを捉えられるように働きかけていく。社会科や理科、国語等での表やグラフの読み取り場面で、算数の既習を生かしたり復習したりする学習を意図的に積み重ねる。 〈その他〉 1. 課題について自分で考え、集団で検討し、まとめていく問題解決型学習の徹底を図る。問題解決の際には、前時までの課題を振り返り、既習事項を活用できるようにする。自分の考えを図や言葉、表、式、数直線などを使って分かりやすくかくように促す。集団検討の場面では、自分の考えを説明したり、友達の考えを聞いて自分の考えを広げたりする時間を設ける。 2. 反復練習の時間の設定 ポプラタイム（朝自習）の時間や家庭学習時に、復習問題を繰り返し解くようにする。東京ベーシックドリル診断シート結果が悪かった問題を中心に、ポプラタイムでプリント学習を進める。すららドリルを活用し、個に応じた学習に取り組ませ、内容の定着を図っていく。
理 科	○実験や観察に興味をもち、意欲的に取り組んでいる児童が多い。 ○見通しをもって実験、観察をするのに慣れてきたが、予想や仮説をもとに解決の方法を発想する力が十分に身に付いていない。 ○考察の力が十分に身に付いておらず、実験・観察の結果からどのようなことが言えるのか、自分の言葉で説明することができない。	○興味・関心を更に高めるため、実験や観察など体験的な方法を多く取り入れることで、実感ある理解を導く。 ○調べるための条件について全体で確認した上で、実験・観察方法の検討に入る。変える条件と同じにする条件を話し合う際は、丁寧に指導して実験・観察方法を発想する力を養う。 ○観察・実験の結果を表やグラフに整理し、実験・観察の目的、予想と関連付けて考えるようにする。また、科学的な言葉や概念をキーワードとして提示し、考察やまとめの記述の足がかりとさせる。 ○ICTを活用し、実験や観察の様子を撮影したり映像資料なども効果的に取り入れたりしながら学習の理解を深めたり、さらなる関

		心・意欲を高めていく。
音 楽	○目標をもって最後まで頑張ろうとする姿が増えてきた。 ○どのように演奏したいのか、歌いたいのかについて思いや意図をもって、演奏したり、歌ったりする力が育っている。	○曲の解釈や表現方法について、考察させ意見交換やディスカッションの場を設ける等音楽性を高めていく。 ○児童がさらに思いや意図をもって音楽活動に取り組むことができるように題材構成を考えたり、児童が工夫して取り組んだりする活動を積極的に取り入れる。
図 工	○主体的に表現したり鑑賞したりする活動に取り組む姿が多く見られるようになった。しかし他者意識が低い様子も見られる。 ○造形遊びをする活動の経験が少ない様子が見られる。 ○形や色などを基に、自分のイメージをもち豊かに表現する児童が少ない。友達の表現に引っ張られている姿が見られる。 ○表したいことに合わせて既習の知識技能を生かす児童が少ない姿が見られる。 ○既習の学習を生かしている姿も見られるが、材料・用具の選択や表したいことを見付けることなど自己選択や決定の経験が少ない。	○鑑賞を取り入れ、自分の活動を振り返りったり自他の表現の違いに気付いたりする経験を増やしていく。 ○造形遊びなどの自分たちで活動をつくる経験を通して、材料や環境、友達同士の関わり合いを増やしていく。 ○自分の感覚や行為から自分なりのイメージを生み出すため、じっくり見る、触る、などの感覚的行為の充実を図る。 ○手や体全体の感覚を働かせ、表現活動に取り組む児童を増やすため指導の充実を図る。 ○系統的に材料用具を活用できるよう、またテーマを自身で考え表現できるよう、計画的な年間計画の設定。
体 育	○すすんで運動しようとする姿が見られる。 ○生活や遊びの中での運動の経験に差があり、技能差がある。 ○自己やグループの運動の課題を見付け、その解決のための方法や活動を工夫することに課題がある。 ○自己の考えたことを伝えようとする姿は見られるが、他者の考えたことを理解し、自己の考えを深めることに課題がある。	○第一時では自分のもっている力でできる技に取り組ませることで、運動の特性に応じた楽しさや喜びを味わわせる。 ○運動をする場や練習の仕方などを自ら工夫したり選択したりできる機会を設ける。 ○仲間の考えを聞いたり、互いに取組を認めて仲間とより有効な関係を築けるように、意図的にグルーピングをするなど、必要に応じて児童同士を結び付ける言葉掛けや環境づくりを行うようにする。
家庭科	○裁縫や調理など実践的・体験的な学習だけでなく、家庭生活にも興味・関心が高く、意欲的に取り組む児童が多い。	○児童がさらに意欲的に取り組むことができるように教材を工夫していく。また、自分の家庭生活と結びつけるような発問や学習内容を工夫していく。

	○裁縫では、細かな作業が苦手な様子も見られたが、諦めずに取り組むことによって習得した。また、習得が困難な児童に対して、児童同士で教え合う姿も多く見られた。	○ミシンの学習では、ミシンと手縫いの両方を活用しながら製作に取り組むため、手縫いの基本技能も並行しながら復習していく。 また、ICTを活用しながら、視覚的な理解につなげ、知識・技能の習得を図る。教材教具を工夫し、分かりやすい授業を目指していく。
道 徳	○登場人物の状況や気持ちの変化を捉え、自分の考えを書いている。 ○道徳的価値について理解をしても、それを自分の生活や今後の生き方にどう生かしていくかについて考えることに課題が見られる。	○登場人物の気持ちに沿って考え、道徳的価値に迫ることができるように発問を工夫する。 ○学んだ価値について、自分の生活や経験を見つめ直す活動を毎時間しっかりと確保する。その上で、友達の考えを聞いて自分の考えを広げられるように、意見交流の時間を十分に取る。事前のアンケートや振り返りの活動にタブレットを活用し、生活と結び付けて道徳的価値を考えることができるようにする。
総合的な 学習の 時間	○意欲的に追求活動に取り組む姿が多く見られる。 ○「課題設定」の過程では、テーマから自分なりの課題を見付け、設定しようとする姿が多く見られる。 ○「情報収集」の過程では、有効な資料を収集・選択できなかったり、資料の内容を理解して自分の考えをまとめることができなかつたりすることがある。 ○「整理・分析、表現・まとめ」の過程では、得た情報をそのまま使用することが多く、図や表、グラフなどに整理して表現することに課題がある。	○各教科の学習や生活経験との関連をより図ったり、体験的な活動を取り入れながら一人一人が課題意識をもつことができるようにする。課題設定の方法について具体的に指導する。 ○課題に対する疑問点や気付きから問題をもてるような教科や活動などを工夫し、主体的・探究的に学習できるようにする。 ○各教科と関連付けて、資料収集力や資料を読み取る力を高め、課題に即した適切な資料の収集や取捨選択の仕方を学ばせる機会を設ける。 ○情報リテラシーの学習を行い、真偽を見極めてより信頼性の高い情報収集ができるようにする。 ○思考ツールを提示し、必要に応じて選択して活用できるようにする。 ○各教科において多様なまとめ方を経験させ、内容や目的に応じて、適切なまとめ方を選ぶことができるようにする。
外国語	○外国語自体には興味・関心があり、意欲的に取り組む様子が見られる。人前で英語を話すことには消極的な姿も見られる。 ○動画視聴やゲーム等を通して、「聞く」	○授業の中で、英語に触れる機会を多く設けるようにする。特に児童が英語を話す機会を増やす。授業中の指示についても、できるだけ英語を多く使用して英語に慣れ親しめるようにする。 ○ALTの活用を工夫したり、デジタル教科書を積極的に活用したりすることによって、ネイティブな発音に親しめたり、自分に合った学び

	「話す」への積極性が高まった。「書く」「読む」への指導に工夫が必要である。アルファベットの学習では、大文字の形や名前が分かり、書くこともできる児童が多い。一方で、小文字の認識は不十分である。	をできるようにする。 ○歌やアクティビティを通して、少しずつアルファベットの小文字に慣れ親しみながら、発音と文字一致するようにする。また、4本線を意識して、文字の高さに気を付けながら正しく書くことも指導する。
--	--	---